

科目名	哲学 Philosophy			担当教員	森 正幸			
学 年	4 年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2	
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	10G04_20300	単位区別	履修	
学習目標	世界は大量生産・消費による環境破壊、人口爆発と貧困、グローバル経済と諸紛争、テクノロジーの発達に起因する負の影響など、諸問題が山積している。このような諸問題が即、日常生活レベルと通底していることが極めて現代的特徴であり、今こそクールな情熱と豊かな総合知としての哲学が求められている時代は他にない。豊富な思考資料の下、豊かな試行錯誤を心掛けたい。							
進め方	教科書を中心として講義形式で進める。必要に応じて、判例や事例を学ぶ。また、実社会の出来事を法的に考えていく。判例や事例については、自分なりの感想を持てるようにする。内容が多岐にわたるので、要領よく学習を進めることが大切である。							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標				
	1. 個人史としての哲学(2) 2. 哲学概論(2) 3. 現代世界の諸問題と哲学(2) 4. 哲学知のさまざまなあり方(2) 5. 西洋哲学史(2) 6. 「ソフィーの世界」を題材として(2) 7. 神話(2)			自己を形成している精神内容を見つめる眼と 他者理解の態度を涵養する。 A1:3 世界の諸問題と世界内存在としての自己。 A1:4 さまざまな知的在り方があること理解する。 A3:4 歴史的変遷によりさまざまな思想が誕生し、時代の役割を果たした事を知る。 A3:1				
	[前期中間試験]							
	8. 自然哲学(2) 9. 運命(2) 10. ソクラテス(2) 11. プラトン(2) 12. アリストテレス(2) 13. 神学(2) 14. 哲学と人生(2) 15. ストア学派(2)			歴史的変遷によりさまざまな思想が誕生し、時代の役割を果たした事を知る。 A3:1 境遇の如何に拘わらず教養は人生を豊かにする。 A1:4				
	前期末試験							
	16. 答案返却・解答(1) 17. 哲学と科学的思考(2) 18. デカルト(2) 19. ベーコン(2) 20. パスカル(2) 21. スピノザ(2) 22. ライプニッツ(2)			哲学と科学的思考の不可分性と科学的思考を産出した西洋哲学の特性について考える。 A1:3				
	[後期中間試験]							
	23. カント(2) 24. ヘーゲル(2) 25. 世界の哲学者(2) 26. 現象学と人間諸科学(4) 27. 総合知(2) 28. 世界観としての哲学(2) 29. Philosophy と哲学（東洋的形而上学）(2)			哲学の一形態である現象学が何故、成立したのか、考察する。 A1:3 混迷の度を深める現代世界、総合知・世界観としての哲学の重要性を知る。 A1:3, 4 世界の偉大な知的伝統の十字路である日本とは何か…。 A1:3, 4				
	後期末試験							
	30. 答案返却・解答(1)							
	評価方法	定期試験を主たる評価とし、小論文と平常点（出席率、授業態度）を加味する。意見発表など積極的に授業参加した者に対しては評価をする。						
	履修要件	特になし。						
関連科目	歴史・地理（1学年）→歴史（2学年）→政治経済（3学年）							
教材	教科書：なし 参考書：ヨーステン・ゴルゲン著「ソフィーの世界」NHK 出版 木田 元 著「反哲学史」講談社学術文庫 木田 元 著「現代哲学」同上							
備考	テーマによっては映像を使用することもある。							